

招詞 ヨハネの手紙一 4:9 「神は、独り子を世にお遣わしになりました。その方によって、わたしたちが生きようになるためです。」

■礼拝の祈り

天におられますイエス・キリストの父なる神、わたしたちの父よ、

<礼拝の招きへの感謝>

あなたが、独り子、主イエス・キリストをわたしたちのもとに、わたしたちのために送ってくださったことを、このアドベントの時にもう一度心確かにし、喜びと感謝をもって過ごしています。この礼拝においてもあなたが救いの約束を必ず守ってくださる神であることを確かにさせてください。

<神の御前での罪の告白と悔い改め>

あなたは、何のよい行いもない私どもに恵みとして御子を送ってくださいました。私も御子をいただくのに全くふさわしくない者であったにもかかわらず恵みをくださいました。もし今も、御子を受け入れるのにふさわしくない心がありましたならば、どうか真実の悔い改めを持って、あなたの方を向くことができるように清めてください。この、主の深い愛を知りながらも、普段は祈ること少なく、また、祈ったとしても自分の願いばかりを祈ってしまった日々を思い起こし、恥じ入るばかりです。あなたに、隣人を愛するようにと命じられたにもかかわらず、自分の気に入る人だけを隣人とし、そうでない人を愛するに値しないものと決めつけ、裁き、傷つけたことを思わずにおれません。人を助けることをせず、だれも自分を助けてくれないとつぶやいていました。この世界を自分のものだと思い込み、すべてを自分のものにしようとしています。世界のすべてとはいわなくても、自分の生活、身の回りのこと、人間関係において、自分の思い通りになるように願い、それが正しいことだと信じ込んでいます。これらのどれもが、結局はあなたではなく自分ばかりを見、あげくには自分を神とすらしようとする根源的な罪から来ているものであることに気づかせてください。

<御言葉が語られ、聞かれるため、聖霊の働きを求めて>

神よ、どうか私どもを憐れんでください。わたしどもは自分で自分を救うことはできません。しかし、そのことにすらきづかず、自分でなんとかしよう、だれかなんとかしてくれ、とむなしい願いを口にするのです。どうか今、もう一度、このような私どものために、あなたが主イエス・キリストをわたしたちのために遣わしてくださったことを確かにさせてください。わたしではなく、あなたが世界の支配者、王であることを教えてください。あなたは御子を十字架に送るほどわたしたちを愛してくださる王であることを心に刻んでください。主イエスご自身がそのために苦しまれたことの上に、もう一度立たせてください。この罪ある世界が清められ、完成させて下さろうとするあなたのご計画のうちに、私どもが歩みをゆるされていることに希望をいただかせてください。クリスマスの喜びが、わたしのための救いの喜びであることを真に知ることができるよう。御言葉をお語りください。

主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン。

■教会の祈り

<礼拝感謝>

<アドベントの歩みを守り導いてください>

アドベントの第2週を歩み始めます。クリスマスまで近づく、歩みを一步一步つづけています。どうかこのアドベントが喜びと感謝のクリスマスにつながりますように、祈りで満たして下さい。祈る心もまたあなたから与えられるものです。この恵みによってますます深く御心を求め、あなたにゆだねて祈ることができますように。

さまざまな理由で礼拝に来ることができないでいる者、それぞれの場所で礼拝をしている者にもあなたがクリスマスの恵みを満ちあふれさせてください。あなたの救いはあらゆる人に、全世界に及ぶからです。どうかクリスマスによってあなたの救いが宣べ伝えられますように。

<心と体に重荷を負っている者、困難の中にある者を救ってください>

今、心や体に重荷を負っているもの、病気、悩み、老い、あるいは若さゆえのものを抱えているものがおります。どうか癒やして下さい。主イエスがともにいてくださること、わたしたちの苦しみ・不安をすべて知っていてくださること、そしてわたしたちの重荷と一緒に負ってくださることを信じて祈ることができますように。何よりも十字架の罪の赦しによって、真実に生きる道、命を与えられていることを重荷を負う中でこそ思い起こさせてください。御言葉にこそ真の慰めがあることを信じます。わたしたちがクリスマスの喜びを伝えることができますよう、お用いください。

<あなたの御旨を受け入れる祈りの生活を>

歩みだします一週間を祈りの生活としてください。様々なものを求めますけれど、どうかあなたの御旨こそを受け入れることを祈りを通して教え、そのように導いてください。

主イエス・キリストの御名前によって祈ります。アーメン。

■祝福

主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、あなたがた一同と共にあるように。アーメン。